

第2次木津川市環境基本計画 【概要版】

第1章 基本的事項

○計画の背景

- ・私たちのこれまでの大量生産・大量消費・大量廃棄による物質的な豊かさを重視してきたライフスタイルや事業活動により、地球規模での気候変動や海洋プラスチックごみ汚染、生物多様性の損失など、様々な地球規模での環境問題が生じています。
- ・地球規模の危機的な環境問題を解決するためには、身近な取り組みが大変重要であり、将来にわたり持続可能な社会の構築が求められています。
- ・本市においても、“ゼロ・カーボンシティ”を目指すなど、持続可能な脱炭素型の社会の実現に向けて、環境施策を横断的かつ相乗的な効果の観点から総合的に取り組みを推進します。

○計画の位置づけ

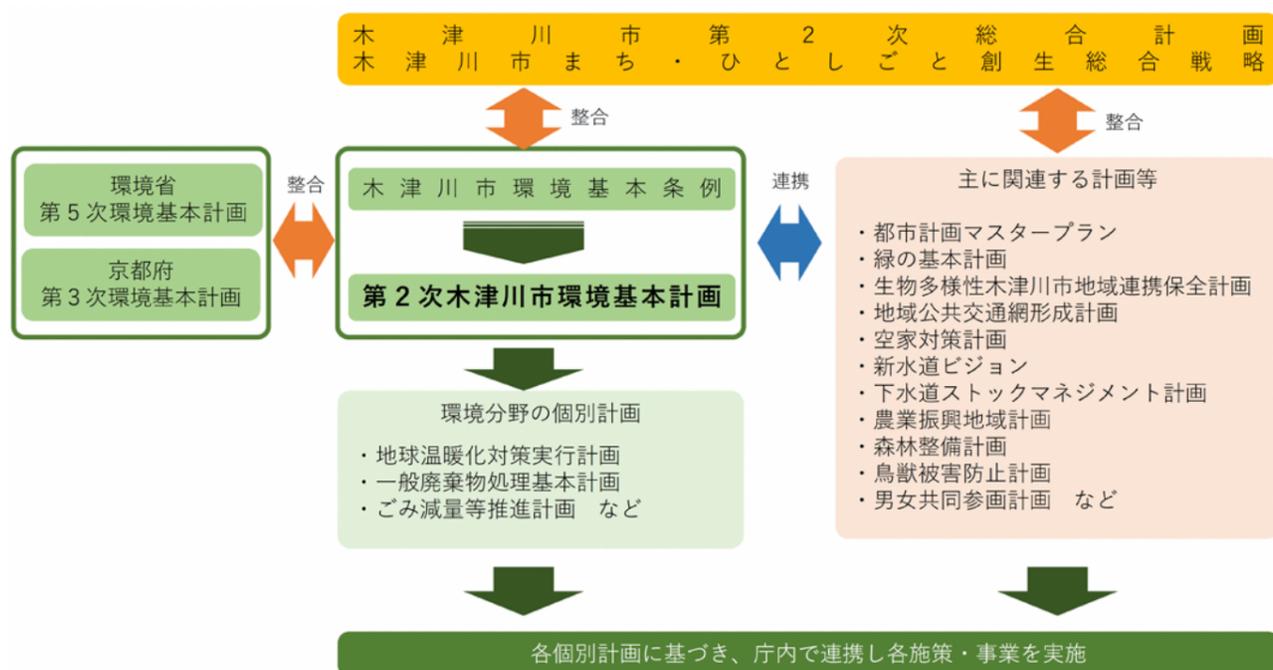
- ・木津川市環境基本計画は、木津川市環境基本条例に基づき、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とし、2013（平成25）年2月に策定しました。
- ・今回、この計画期間が2021（令和3）年3月で終了することから、本市におけるこれまでの環境を取り巻く状況の変化に対応するとともに、気候変動・温暖化の防止など、地球規模の環境問題の解決や将来に向けて、本市の環境施策を更に推進するため、第2次木津川市環境基本計画を策定することとしました。

○計画の期間

- ・本計画の計画期間は、2021（令和3）年度～2030（令和12）年度の10年間とし、地球の環境変化に対応した世界・国の動向や社会情勢の変化などを踏まえて、概ね5年を目途に中間見直しを行います。

○計画の体系と関連計画

- ・本計画は、環境保全に関する長期的な目標や施策の方向を示すものであることから、具体的な施策や事業については、関連する個別計画等に基づきそれぞれ実践していくこととし、関連する個別計画の策定等に際しては、本計画で定める目標や方向性を踏まえて、検討します。



第2章 木津川市が目指す計画の基本となる考え

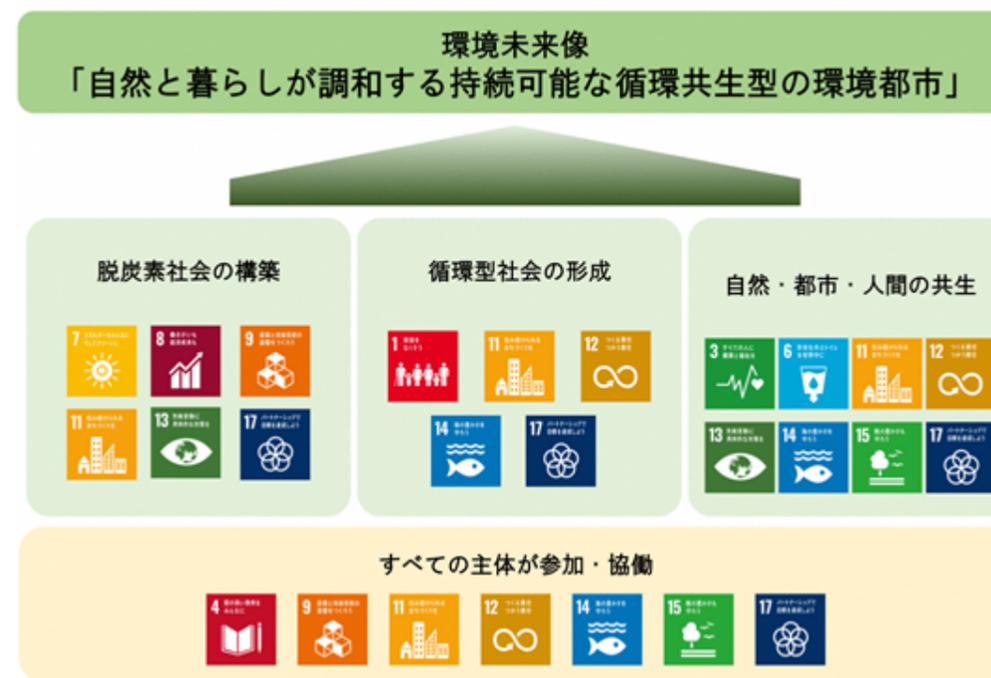
○持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の活用

- ・国際社会の共通目標であるSDGsで示されている、“誰一人取り残さない”、“経済、社会及び環境の課題の同時解決”、“すべてのステークホルダーの参画・連携”という視点に基づき、持続可能性の実現に向けた取り組みを推進します。

○木津川市が大切にしている環境分野における重要視点

- ・持続可能な開発目標（SDGs）実現の視点
- ・循環・共生・多様性の視点
- ・市民一人ひとりの人間を大切にしている視点

○木津川市の環境保全と創造に関する基本理念と環境未来像



第3章 環境未来像を実現するための重要施策

- ・環境未来像を実現するための上記の重要視点に基づき、裏面のとおり5つの重点施策を柱として、具体的環境施策に取り組みます。
- ・環境施策の推進にあたり、市民・事業者・行政の連携・協働を充実・強化し、SDGsの考え方に基づき、各部門の横断的・総合的な対策が講じられるよう、取り組みます。

第4章 計画の推進方策

- ・本計画を着実に実行するために、木津川市環境審議会において毎年度の取り組み状況や管理指標の進捗状況を報告し、第三者の視点から客観的に環境施策の点検・評価を行い、その助言・意見を参考にして、翌年度以降に、必要に応じ、環境施策の取り組みを改善して、推進します。

施策の体系と管理指標

環境
未来像

環境未来像を
実現するための視点

重点施策と関連するSDGsの主なゴール

重点施策の成果を検証するための管理指標
※管理指標の目標値については、2030年度において、現状値・基準値と比較して改善することを基本とし、
具体的な目標値については、個別計画又は関連計画等で定めるものとします。

自然と暮らしが調和する持続可能な循環共生型の環境都市

脱炭素社会の構築

地球環境に配慮した脱炭素に向けた環境都市づくり

【重点施策を実現するための施策項目】

- ①科学的知見の啓発
- ②脱炭素社会の実現に向けた取り組み
 - 行政による率先的な取り組みの推進
 - CO2をはじめとする温室効果ガスの削減対策
 - 森林等の吸収源を活用した取り組み



- ・木津川市の公共施設から排出される温室効果ガス量【木津川市地球温暖化対策実行計画】
(基準年度・数値)2013年度7,378 t-CO2、(現状年度・数値)2019年度5,744 t-CO2
- ・固定価格買取制度における再生可能エネルギー発電設備の導入率
(現状年度・数値)2019年度 17.7%
- ・エコ生活応援補助金(太陽光発電・蓄電設備)の交付件数
(現状年度・数値)2019年度 49件

循環型社会の形成

環境負荷が少なく資源が循環する環境都市づくり

【重点施策を実現するための施策項目】

- ①廃棄物減量の推進
 - 2Rの取り組み
 - 可燃ごみの減量対策
 - プラスチックごみの削減
- ②廃棄物のリサイクル・適正処理の推進
- ③新型コロナウイルス感染症等の対応
- ④災害廃棄物の処理体制の構築
- ⑤グリーンな経済システムの構築推進



- ・家庭系可燃ごみの一人1日あたりの排出量【木津川市ごみ減量化推進計画】
(基準年度・数値)2009年度 460.5g
(現状年度・数値)2019年度 385.5g ⇒(目標年度・数値)2025年度 326.0g
- ・家庭系可燃ごみに混入した手付かず食品の重量(食品ロス削減量)
(基準年度・数値)2015年度 21.4g
- ・家庭系可燃ごみに混入したビニール・プラスチック容器包装・ペットボトルの排出量
(基準年度・数値)2015年度 23.7g
- ・エコ生活応援補助金(バイオ式生ごみ処理容器)の交付件数
(現状年度・数値)2019年度 14件
- ・ダンボールコンポスト講習会の参加者数
(現状年度・数値)2019年度 227人
- ・一般廃棄物(事業系草・剪定枝除く)のリサイクル率
(現状年度・数値)2019年度 24.2%

緑・水・歴史を育む環境都市づくり

【重点施策を実現するための施策項目】

- ①生物多様性の保全と森林・河川等の保全管理
 - 自然とのふれあいの取り組み
 - 生物多様性の保全と森林・河川の保全管理
- ②野生動物の保護管理と外来種対策
- ③ペットの愛護と適正管理
- ④農林業との連携
- ⑤地域資源の活用
- ⑥大気・水質・騒音・土壌の保全



- ・アダプトプログラムや都市公園・緑地市民自主管理活動団体数
(現状年度・数値)2019年度 64団体(アダプト44団体・公園緑地20団体)
- ・市内の大気質の状況(市内4か所・4項目の環境基準達成度)
(現状年度・数値)2018年度 達成
- ・市内20河川の水質の状況(環境基準達成度(D類型(農業用水等)、BOD8mg/L))
(現状年度・数値)2018年度 達成
- ・市内の騒音・振動の状況(市内5か所の環境基準達成度)
(現状年度・数値)2018年度 3か所達成

自然・都市・人間の 共生

健康で安全な生活ができる環境都市づくり

【重点施策を実現するための施策項目】

- ①緑化の推進
- ②下水道整備の推進
- ③騒音・振動の対策
- ④化学物質のリスクと情報提供
- ⑤生活環境に対する苦情等の取り組み
- ⑥環境犯罪への対応



- ・エコ生活応援補助金(雨水タンク)の交付件数
(現状年度・数値)2019年度 18件
- ・汚水処理人口の普及率【木津川市第2次総合計画】
(現状年度・数値)2019年度 98.7%
- ・市民からの公害・野焼き等の相談・苦情件数
(現状年度・数値)2018年度 35件

すべての主体が 参加・協働

環境人材を育む環境都市づくり

【重点施策を実現するための施策項目】

- ①環境教育・学習の推進
- ②各主体を結ぶネットワークの構築
- ③情報発信



- ・出前講座・出前授業の回数
(現状年度・数値)2019年度 18回
- ・ごみ減量アイデア大賞などの市民参加数
(現状年度・数値)2019年度 33人
- ・環境イベント等の参加者数
(現状年度・数値)2019年度 825人